

第1学年選択 技術・家庭科（技術分野）学習指導略案

1 題材 「マルチメディアの活用」

2 目標

- マルチメディアを活用して、自分の考えを表現する手順について考える力を養わせる。
- マルチメディアを使って、効果的に自分の考えを表現するための素材を編集・加工する力を養わせる。

3 指導計画 (35時間)

配時	学習活動・内容	留意点	観点：評価規準 ＜評価方法＞
1	○オリエンテーション ・マルチメディアとは何か	・動画のサンプルや先輩の作品例を見せる。	関：マルチメディアについて理解し、工夫点を発見しようとしている。〈観察・学習ノート〉
4	○例をもとにして試作品動画を作成する。 ・基本的な操作法	・文字や図の挿入など基本的な操作を確認する。	知：動画製作ソフトウェアの基本的な操作法がわかる。〈観察・学習ノート〉
5	○ビデオ編集ソフトを用いて試作品の音声等の編集を行う。 ・ビデオ編集ソフトの機能	・ビデオ編集ソフトウェアの機能を生かし、創意工夫しながら作成するよう指導する。	技：ビデオ編集ソフトウェアの機能を生かし、創意工夫しながら作成できる。〈観察・作品〉
本時	1 ○試作品による発表会を行う。 (本作品のための反省・評価を行い今後の指針とする。) ・試作品発表会	・全員分の発表会をさせる。評価カードを配布し、全員分を評価させる。	関：わかりやすく発表しようとしているか。また他人の作品のよさを見つけようとしている。〈評価カード・観察〉
2 1 4	○動画作成から発表までの手順を考える。 ・製作手順の確認 ○テーマを決定する。 ・テーマの決定	・作成手順を考えさせ、絵コンテも作成させる。	工：表現する手順が考えられる。〈観察・学習ノート〉
3	○文字、画像、映像、図、グラフなどの情報を収集する。 ・情報の収集① ○インターネット等による情報の収集のしかたを知る。 ・情報の収集②	・テーマは、「百道中学校」に限定する。 ・作品の活用例など写真を残しておくよう前もって予告しておく。 ・集めたい情報の観点を検討させる。Webページの情報をそのまま利用しないよう指導する。	工：独自の情報をたくさん集めようとしている。〈観察・学習ノート〉 技：インターネットを利用し情報を検索することができる。〈観察〉
1	○情報社会の光と影や情報モラルについて知る。 ・情報のモラル	・自分たちがマルチメディア作品で使用した各種の情報をあげて著作権上の問題や個人情報の事を考えさせる。	知：著作権や知的財産、個人情報について理解している。〈観察・学習ノート〉
2 8	○画面構成を考え、まとめる。 ・最終構成の決定 ○実際の動画を作成する。 ・編集と製作	・実際の画面と同じように文字や画像をどう配置するかを考えさせ、絵コンテをさらに具体的なものとさせる ・ビデオ編集ソフトウェアの機能を生かし、創意工夫しながら作成するよう指導する。	工：さまざまな情報を効果的にまとめようとしている。〈観察・学習ノート〉 技：ビデオ編集ソフトウェアの機能を生かし、創意工夫しながら作成できる。〈観察・作品〉
2	○発表会をする。 ・発表会	・全員分の発表会をさせる。評価カードを配布し、全員分を評価させる。	関：わかりやすく発表しようとしているか。また他人の作品のよさを見つけようとしている。〈評価カード・観察〉
1	○作品の反省・評価をする。 ・反省と評価	・制作過程全体を通しての反省・評価を行わせる。	関：制作全体を振り返って自分の作品の自己評価をしようとしている。〈評価カード・観察〉

(1) 本時の指導観

前時までに生徒は、マルチメディア作品の試作品を完成させている。最初にマルチメディアの概念の学習を行い、2限目からソフトウェアの練習も兼ねて動画制作ソフトウェア「パラパラ」を使い1分以内の動画の作成をしてきた。5限目からはビデオ編集ソフトウェアを使い、製作した動画に音声を入力して試作品を作り上げている。

本時は、試作品の発表会である。試作品完成までには6時間を要し、かなりの困難があった。まず「どのようなテーマで」「どのようなイメージを持って」「どのように伝えるか」を考えさせ、動画を作成していった。動画は、いわゆるパラパラ漫画の要領で1枚ずつ画像を作成することとなる。その動画作成では、画像1枚で動画0.1秒程度なので、単純計算で30秒作品でも300枚の画像をつくる必要がある。その多数の画像作成には、「コピー」や「貼り付け」の操作技術を繰り返し行う事で効率よく作成した。そして、作成した画像をAVIファイル化して動画にしたのである。

試作品については、テーマ設定は各自で行った。そこで発表活動では、各作品ごとに「紹介したい内容は何か(テーマ)」を確認させたうえで発表活動に取り組みせたいと考えている。また、生徒一人一人が主体的に問題を発見し、解決できるようにするために、自己評価、相互評価の活動を取り入れこととした。「伝えたい内容がはっきりしているか」「見やすく、わかりやすくまとめているか」「情報モラルに配慮しているか」という3つの内容で互いに評価し、アドバイスをし合う中で、作品の改善点を考えさせ、今後の作品づくりの糧とした。つまり、発信の目的をはっきりさせ、何を伝えたいかを十分検討させながら、問題解決的な学習を展開したいと考えているのである。またこの発表会では、発表することで作品完成の喜びや楽しさを体感させ、なおかつ様々な評価を受けることで今後の作品づくりの指標にさせていきたい。

この授業では、技術・家庭科の指導の根幹である「進んで生活を工夫し、想像する能力と実践的な態度を育む」を生徒の主体的な活動で表現・体感できることを理想と考えている。

(2) 本時の主眼

○「わかりやすく発表しようとしているか」という点に注目し、自己評価と相互評価を行い、今後の作品づくりの改善点を考えることができる。

(3) 準備

①前時までに製作した作品 ②評価カード(学習プリント) ③DVDプレイヤー

学習内容・活動	資料教具	指導上の留意点・支援	形態	配時	評価規準	評価基準
1 本時の目標を確認する。 目標「試作品発表会でそれぞれのよさを確認しよう。」		・試作品の発表会の意義を伝える。	一斉	2		
2 発表会を行う上での注意を聞き、確認する。 (1)テーマの確認 (2)使用機器の確認 (3)発表法の確認 (4)その他		・全体で確認する。 (今後の作品づくりの改善点の発見)	一斉	5		
3 発表会を行う。 ・試作品の発表を行う。	①② ③	・全員分の発表会をさせる。	一斉 (個)	30	関:わかりやすく発表しようとしているか。また他人の作品のよさを見つけようとしている。(評価カード・観察)	A:自分の作品において「内容」「見やすさ」「モラル」の3つの内容の反省ができてい
4 評価カードに記入する。 ・「内容」「見やすさ」「モラル」について評価する。	②	・評価カードで全員分の評価をさせる。	個	5		
5 反省や感想を発表する		・評価カードをもとに反省や感想を発表させる。	一斉	6		
6 本時の授業のまとめをし、次時の予告を聞く。		・これからの本作品づくりについて確認する。	一斉	2		